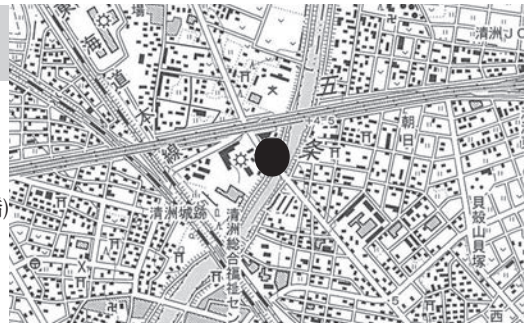
清洲城下町遺跡（本発掘調査B）

所　在　地　清須市一場地内
（北緯35度13分8秒 東経136度50分38秒）
調査理由　橋梁整備工事・総合治水対策特定河川工事（防災安全・緊急対策）(主)名古屋祖父江線(清洲橋)
調査期間　令和6年1月～3月
調査面積　300㎡
担　当　者　樋上 昇・田中 良



調査地点（1/2.5万「清洲」）

調査の経過　調査は、愛知県建設局道路建設課（尾張建設事務所）による橋梁整備工事総合治水対策特定河川工事（防災安全・緊急対策）(主)名古屋祖父江線(清洲橋)に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査区は、2000年度調査区00B区に隣接した北側にあたり、調査面積は300㎡の2面調査である。

立地と環境　遺跡は、清須市中央部を流れる五条川両岸の自然堤防状の微高地とその後背湿地に広がる遺跡で、今回の調査区(23C区)は清須城天守台跡の北にある北曲輪(北の丸)にあたる。

調査の概要　今回の調査では、戦国時代から江戸時代にかけての遺構と出土遺物が確認された。

戦国時代から江戸時代前期初頭では、瓦や陶磁器を含む整地層が検出され、同層を掘り込むかたちで多量の瓦を含む瓦溜まり(005SX)や、陶器や内耳鍋を含む廃棄土坑(001SK)などの遺構が検出されている。

さらに、上記の整地層とそれに伴う遺構群の下層には、00B区から伸びる石垣が23C区内にも続くことが確認された。当該地点が絵図などから推測される北曲輪に相当し、櫓状建物の石垣の可能性がある。また、石垣の下層には16世紀の遺物を含む包含層があり、ここからもさらなる遺物の出土が期待される。　(田中　良)

1面目調査区全景（南から）